



THE JAPAN SOCIETY OF
HEALTH EVALUATION AND PROMOTION

日本総合健診医学学会

ご案内と活動紹介

2023年度版



一般社団法人 日本総合健診医学会
理事長

西崎 泰弘

「前へ、そして未来へ」

このたび2023年1月28日より日本総合健診医学会の理事長に就任致しました東海大学医学部の西崎泰弘です。私は消化器肝臓病を専門とする総合内科医で、24年前の1999年に当学会に加入し、2011年から理事、そして2013年からの8年間は副理事長として学会の運営に努めて参りました。

私たち日本総合健診医学会は、1993年（平成5年）より日本学術会議に正式登録されている学術研究団体です。健康評価と健康増進のため、健康診断の効果的な機能向上を目的としてIHEPA（International Health Evaluation and Promotion）の本邦における活動団体として、聖路加国際病院の日野原重明先生らにより1973年11月に設立されました。今年はその半世紀目となる50周年を迎えていますが、その歴史ある学会において節目となる年に理事長を拝命致しましたことを大変光栄に感じて居ります。

2022年における世界一の健康長寿国は、男女ともに日本であったとWHOは発表しました。その日本は、世界で最も盛んに健診や検診（以下けんしん）が行われている国であり、それが様々な疾患リスクを遠ざけ、本邦の健康長寿を支えています。しかしながら残念なことに、近年3年間は、新型コロナウイルスの感染蔓延により全国的にけんしんの受診控えが発生し、結果、早期ならば救えた命が失われる報告が世界中から上がっています。でも、今年からは新型コロナは第5類へ移行され、感染を制御しながらけんしんを行う新たな局面に入っています。

「前へ、そして未来へ」、この新たな年に、当学会は新体制となってこれまで以上に会員の皆様にお役に立てるよう研鑽と精進を重ね、日本ならびに世界の予防医学の発展を推進して参ります。どうぞ皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

日本総合健診医学会の 歴史

本学会は昭和48（1973）年に日本自動化健診システム研究会として発足し、現在に至るまで総合健診の確立に邁進してきました。

学会の歴史

- 昭和48（1973）年 日本自動化健診システム研究会発足
- 昭和50（1975）年 日本自動化健診学会へ改称
- 昭和60（1985）年 日本総合健診医学会へ改称
- 平成16（2004）年 有限責任中間法人 設立
- 平成21（2009）年 「一般社団法人」へ法人名変更

会長・理事長

年 度	氏 名
昭和48(1973)年～昭和61(1986)年	榎 田 良 精
昭和62(1987)年～平成 8(1996)年	日 野 原 重 明
平成 9(1997)年～平成18(2006)年	田 村 政 紀
平成19(2007)年～平成27(2015)年	日 野 原 重 明
平成27(2015)年～令和 4(2022)年	福 武 勝 幸
令和 5(2023)年～現在	西 崎 泰 弘

2023・2024年度 理事・監事

役職名	氏 名	所 属	役職名	氏 名	所 属
理 事 長	西 崎 泰 弘	東海大学医学部総合診療学系健康管理学領域主任教授	理 事	増 田 勝 紀	聖路加国際病院附属クリニック 予防医療センター 特別顧問
副 理 事 長	高 橋 敦 彦	日本大学短期大学部 教授、食物栄養学科 学科長	理 事	小 松 淳 子	日本赤十字社医療センター 健康管理科 部長
副 理 事 長	山 上 孝 司	一般財団法人北陸予防医学協会 施設長	理 事	高 木 重 人	横浜リーフみなとみらい健診クリニック 院長
理 事 長 特 別 補 佐	林 務	独立行政法人労働者健康安全機構関東労災病院 臨床検査科・輸血部 部長	理 事	榎 原 英 俊	医療法人宝生会PL東京健康管理センター 指導課 課長
理 事 長 特 別 補 佐	井 上 詠	東海大学医学部総合診療学系健康管理学 准教授 東海大学医学部付属八王子病院健康管理センター	理 事	浜 田 宏	一般財団法人倉敷成人病センター 倉敷成人病健診センター 副センター長
理 事	福 武 勝 幸	東京医科大学 臨床検査医学分野 名誉教授／兼任教授 医療法人財団 荻窪病院 血液凝固科 部長	理 事	丸 山 雄 一 郎	JA長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター 放射線科 部長
理 事	五 関 善 成	全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院 副院長、循環器内科 部長	監 事	菱 沢 利 行	医療法人藤和会藤間病院 理事長
理 事	田 内 一 民	順天堂大学医学部 大学院医学研究科 臨床病態検査医学 特任教授	監 事	富 山 博 史	東京医科大学循環器内科 教授
理 事	加 藤 秀 平	医療法人順秀会 理事長	監 事	及 川 孝 光	医療法人社団こころとからだの元氣プラザ 学術特任顧問

国際健診学会

国際健診学会は1971年に発足し、第1地域（米国）、第2地域（欧州）、第3地域（アジア、オーストラリア、太平洋諸島）の3つの地域に分けられましたが、近年では第3地域での活動が中心となっています。現在国際健診学会のPresident Emeritusには本学会元副理事長の久代登志男先生が就任されています。また、第3地域事務局は本学会事務局内に置かれています。

学術大会は2年毎に開催され、次のIHEPA（国際健診学会）2025は2025年1月31日（金）～2月1日（土）にグランドニッコー東京ベイ舞浜（千葉県）で日本総合健診医学会第53回と同時開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、国際健診学会の今後の予定は、国際健診学会HP（<http://www.ihepa-region3.org/>）をご参照ください。

学術大会の開催

本学会では昭和48年（1973年）11月に東京の機械振興会館で第1回大会を開催して以来、毎年1回、学術大会を開催しています。学術大会では、毎回、大会テーマに沿った特別講演、教育講演、シンポジウム等様々なプログラムが用意されており、総合健診の最新情報を提供するとともに、発表や討論を通じて、健診に携わる多くの職種、業種の方々の交流の場となっています。

次回大会予定 日本総合健診医学会 第52回大会

メインテーマ
持続可能なやさしい総合健診を探索する

大会長
浜田 宏
(一般財団法人 倉敷成人病センター
倉敷成人病健診センター)

会 期
2024年1月26日（金）～27日（土）

会 場
倉敷アイビースクエア（岡山県倉敷市）



研修会

有益な情報提供の場として各種研修会を開催しています。詳細な開催情報は、募集時期になりましたら学会ホームページに掲載します。

2023年度研修会予定

研修会名	開催期間	開催方法
実査講習会	1/27	会場
人間ドック健診専門医研修会	会場：1/28 WEB：2/7～2/21	ハイブリット
指導士・業務管理士研修会	2/9～2/22	WEB
人間ドック健診専門医研修会	6/6～6/20	WEB
精度管理研修会	6/9～6/22	WEB
産業医支援研修会	7/2	会場
データヘルス研修会	会場：7/15 WEB：7/19～8/1	ハイブリット
優良施設認定基準研修会	9/8～9/22	WEB

学会誌について

本学会では、昭和49年(1974年)に学会誌を創刊し、現在『総合健診(英文誌名:Health Evaluation and Promotion)』を年6回刊行しています。経験豊富な各分野の専門スタッフからなる編集委員会を組織し、予防医療を代表する学術雑誌として、総合健診、産業保健、学校保健などに関する最新知識を提供する、質の高い誌面作りに努めています。また、原著や総説だけでなく、健診に役立つ連載企画や、学術大会で行なわれた各種講演、研修会の内容も解りやすく掲載しています。『総合健診』誌に掲載された論文は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)を通じて世界に向けて公開されており閲覧数は順調に伸びています。皆様もぜひご活用ください。



編集委員会委員長より

編集委員会は委員長、2名の副委員長と健診の第一線で活躍され専門分野の異なる10名（海外のvisiting editorを含む）の委員による計13名で構成されています。ご投稿いただきました論文は、編集委員と査読委員の2名によるピアレビューを経て掲載に至ります。年間を通じ最も優れた和文と英文の各1編に「優秀論文賞」が贈られ、学術大会内で表彰されます。多くの会員諸氏のご投稿をお待ち申し上げます。会員の皆様に有益な情報発信ができますよう、これからも誌面の充実に努めて参ります。ご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。



東海大学医学部
総合診療学系健康管理学 准教授
井上 詠

優良総合健診施設



<優良総合健診施設とは>

近年、急速な少子高齢化や国民生活の意識の変化等から、健診をはじめとする予防医学に対する社会の関心が高くなっており、より一層環境の整った信頼できる適切な施設での健診が求められています。本学会では、学会設立当初の昭和49年（1974年）から各施設の健診設備、健診システム、受診者対応、安全対策、感染対策などを中心に本学会に所属する施設が社会的に信頼される医療水準で運営されているかどうかを審査し、「質」の保証された施設には「優良総合健診施設」として認定をおこなっています。本年7月現在、264施設が認定されていますが、認定にあたっては本学会の定める「優良総合健診施設認定基準」を充たす必要があります。

1. 本学会の会員であること。
2. 施設が独立しており、一般診療受診者と区別されて総合健診が行なわれていること。
3. 本学会の規定する基準検査項目が総合健診受診者に対して行われていること。
4. 総合健診全体の品質管理が行なわれていること。
5. 受診者全員に対して当日面接を行い、健診結果の説明と生活指導を行うことができること。
6. 一般社団法人健康評価施設査定機構に入会していること。

※各基準の具体的な内容については学会ホームページをご参照ください。

<優良総合健診施設認定を受けるメリット>

- 1 **健康保険組合連合会（以下「健保連」）との指定契約に参加することができます。**
健保連加盟の健保組合と個別契約を行わなくても、ご施設の設定した料金で総合健診受診者の受入れができます。
- 2 **健診施設としての信頼性が高まります。**
信頼性が向上することにより、健保連に加盟していない健保組合とも個別契約を結びやすくなります。
- 3 **「質の高い健診」の提供により、受診者の安心につながります。**
健診専用のフロアーや当日面接の実施、精度管理調査への参加など、本学会の厳しい条件をクリアすることによって「健診の質」が保証され、受診者の安心・安全を確保できます。

<実地審査>

新規認定及び、認定更新の際には、優良総合健診施設認定委員会または実査委員が施設を訪問し実地審査（実査）を行っています。実査では委員が受診者の目線で現場を確認し、受診者が安心して健診を受けられる体制であるか、環境が整っているかをチェックしています。

優良総合健診施設認定委員会委員長より

優良総合健診施設認定委員会では、実地審査を行うに当たり、新型コロナウイルス感染症を含む各種感染症の状況や地域の実情、施設の状況だけでなく、実査担当者の所属施設の方針も考慮して、実施の可否を判断しております。実地審査の際には、飛沫、接触感染対策等を講じた環境をご準備いただくよう、お願い申し上げます。



独立行政法人
労働者健康安全機構関東労災病院
臨床検査科・輸血部 部長
林 務

受診者統計

本学会では、判定基準の妥当性や、健診精度の見直し、健診機能の評価や加盟施設全体の平均値との比較を行う受診者統計指標を作成しています。

受診者統計A（総合健診）と受診者統計B（特定健診）の2種類の受診者統計事業を、2015年からこれまで実施してきましたが、2022年度の調査における参加施設数は、Aが295施設、Bが222施設、総受診者数は、Aが236万人、Bが355万人でした。

また、会員施設がデータヘルス計画に積極的に取り組んでいる施設であることを内外に示すことができるように、受診者統計Bを提出し、データヘルス研修会に参加した希望施設には、一定の条件を満たした上で「データヘルス支援施設」として認証しています。

エビデンス指標委員会委員長より

来年（2024年）度から特定健診の4期目、データヘルス計画の3期目が始まります。国は、事業所や健保組合に対し、働き方改革、健康経営、データヘルス計画の作成と実施等を求めるとともに、個人に対してPHR（パーソナルヘルスレコード）の活用を図る計画を推し進めています。この統計事業が、それらの活動を後押しするものになるように、また各健診施設が活用しやすいように、受診者統計事業を一層充実したものにして行きたいと思っています。



一般財団法人北陸予防医学協会
施設長
山上 孝司

精度管理調査事業

精度管理調査とは

近年、医学・医療の進歩や多様化に伴い、より正確で速い検査の必要性和施設の検査結果の標準化が求められ、結果に対する保証として精度管理事業の意義はより一層増大してきました。標準化された検査結果を用いて科学的根拠に基づく診断、治療を実践する以上、精度管理は医学・医療にとって必要不可欠な事業です。

本学会では、昭和48年（1973年）の創立当時より精度管理委員会を設置し、会員施設に対し独自の外部精度管理調査を続けて、信頼される総合健診を実現するために力を注いできました。この精度管理調査には本年4月現在、366施設が参加しています。

また、平成20年（2008年）からは、従来より実施していた検体検査に加えて、画像検査（胸部単純X線検査）、生理機能検査（心電図検査）の調査も始まりました。精度管理調査は現在、年4回実施していますが、第1回は画像検査（胸部単純X線検査）、生理機能検査（心電図検査）、第2回～第4回は特定健診の項目を中心に3濃度ないし2濃度の検体を用いた検体検査の調査を行っています。

調査項目及び実施スケジュール

実施時期	試料	項目
第1回 （2月）	CD	胸部単純X-P
	CD	安静時心電図
第2回 （4月）	生化学、脂質、CRP	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT (GPT), γ -GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP
	HbA1c	HbA1c
	尿	尿蛋白, 尿糖, 尿潜血
	血算	RBC, Hb, Ht, WBC, MCV, MCH, MCHC, PLT
第3回 （7月）	生化学、脂質、CRP	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT (GPT), γ -GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP
	便	便潜血
	血算	RBC, Hb, Ht, WBC, MCV, MCH, MCHC, PLT
	生化学、脂質、CRP	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT (GPT), γ -GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP
第4回 （9月）	HbA1c	HbA1c
	尿	尿蛋白, 尿糖, 尿潜血
	血算	RBC, Hb, Ht, WBC, MCV, MCH, MCHC, PLT
	生化学、脂質、CRP	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT (GPT), γ -GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP

精度管理委員会委員長より

健診施設では一度に大量のデータ処理を行うので、ひとたび精度が損なわれると多くの偽陽性、偽陰性が発生し社会に対して大きな影響を与える危険性があります。精度管理は、受診者・社会から信頼される検査水準を維持しているかを客観的に評価できる大切なツールです。検体検査に加え心電図や胸部レントゲン検査まで含む精度管理は本学会独自のものです。本委員会では年4回の調査で各施設の精度管理の向上に役立ててもらえるように、データをフィードバックさせていただいています。受診者が全国どこでも安心して総合健診を受けることができるよう多くの施設に参加していただきたいと思います。



全国土木建築国民健康保険組合
総合病院 厚生中央病院 副院長
循環器内科 部長
五関 善成

総合健診指導士・総合健診業務管理士

総合健診指導士・総合健診業務管理士とは

本学会では平成17年（2005年）に総合健診指導士の認定を、翌平成18年（2006年）に総合健診業務管理士の認定を開始しました。総合健診指導士とは、総合健診施設に勤務する医師以外の医療スタッフの能力を啓発し、総合健診の健康指導と支援の質の向上を図ることを目的とした資格です。また、総合健診業務管理士とは、総合健診施設に勤務する医療職以外の事務系職員の能力を啓発し、総合健診システム全体を支えるマネージメントの質の向上を図ることを目的とした資格です。両資格とも、勤務形態（常勤／非常勤）は問いません。

本年7月現在で総合健診指導士は187名、業務管理士は100名が認定されています。資格取得者は、本学会優良認定施設の実査委員としても活躍しており、認定施設の発展に貢献しています。

指導士・業務管理士委員会委員長より

医師には専門医制度がありますが総合健診は医師だけではできません。事務職員を含むコメディカルとの適切な連携・協働が必要であり、施設には総合健診に精通したコメディカルが必須です。このため日本総合健診医学会では、総合健診指導士として医師以外の医療職、業務管理士として主に事務職員を対象に認定制度を設けております。専門医だけでなく総合健診に精通したコメディカルを認定することで、コメディカルも意欲を持って業務を行うことが期待されます。これらの認定資格者は優良総合健診施設認定の取得および認定更新時の実地審査で、受審する側、実査する側の双方において、重要な役割を演じています。なお、委員会では認定試験に関する業務の他、研修会の企画・開催、関連学会・団体との認定更新単位の相互乗り入れを推進しています。



PL東京健康管理センター
指導課 課長
梶原 英俊

総合健診医

総合健診医とは

本学会では令和5年度（2023年度）より、本学会独自の認定医制度「総合健診医」を創設し、本年7月現在、234名が総合健診医として認定されています。本制度は、一定レベル以上の健診・人間ドック・総合健診・検診に関する経験、知識、実務能力を有することを認定するもので、認定条件は健診業務に従事していることに重きをおき、健診に関わる様々な立場の方に取得いただける条件としています。

認定条件

- 1) 日本国の医師免許取得者で医師としての人格識見を有する者。
- 2) 認定申請時に、3年以上本学会正会員である、または、本学会正会員であり過去3年の健診従事歴があること。但し、いずれも会費を完納していること。
- 3) 認定申請時に、健診（検診）に関わるいずれかの業務^注について累積200例以上の実績があり、施設長の証明が得られること。

注) 健診（検診）に関わるいずれかの業務：問診・診察・検査・結果説明・健康指導など。

また、認定者向けにオンラインによる継続的な学習環境を整え、日常の健診業務に役立つ実学的な学習内容を順次提供してゆくことにより総合健診医の知識・技能の向上を図り、ひいては国民の健康と福祉に貢献することを目指しています。

人間ドック健診専門医

人間ドック健診専門医とは

本学会では、平成17年(2005年)に専門医制度を発足させましたが、平成24年(2012年)から日本人間ドック学会と合同で人間ドック健診専門医制度の運営を開始し、本年4月現在両学会で合せて2100名が人間ドック健診専門医として認定されています。現在、人間ドック健診専門医制度委員会では日本専門医機構の新しい整備基準に沿った規定整備や研修環境の整備をすすめ、人間ドック健診専門医が日本専門医機構の認定を取得できるように準備を進めています。

今後も人間ドック健診専門医の使命である、国民の疾病予防、重症化予防、健康増進を達成するために、人間ドック健診専門医の質の向上を図ることを目的とした事業を維持・運営してまいります。

専門医制度委員会委員長より

『人間ドック健診専門医制度』は日本総合健診医学会と日本人間ドック学会の合同事業として平成24年度に創設されました。人間ドック健診専門医は健診受診者だけではなく、人間ドック健診をご依頼いただく健保組合、企業、そして一般社会に対しても人間ドック健診の質を保証する重要な役割を担っています。本委員会は、専門医数の更なる増加、育成を目指し、暫定研修施設・暫定指導医の委嘱を行っております。人間ドック健診専門医取得者は申請をへることで指導医を取得することが可能です。専門医をお持ちの先生は、是非とも指導医取得をご検討ください。

今年度から新たに、本学会独自の認定医制度である「総合健診医」がスタートしました。この制度は健診に従事する医師のキャリアの継続、知識・技能の向上、アップデートを支援するという側面を持ちます。健診（検診）に関わる制度、法規、各種ガイドラインは日々更新されており、学術大会や各種研修会だけではキャッチアップしづらい情報も数多く存在します。「総合健診医」の学習環境として随時繰り返し視聴できるオンラインコンテンツを設けたことが特色の一つです。総合健診医認定者向けのオンラインコンテンツは整備途上ではありますが、総合健診医だけではなく、すでに専門医をお持ちの先生方にも有意義と考えられるコンテンツも順次充実してまいります。「総合健診医」は生まれたばかりの認定制度です。すべてのご希望に添えるとは限りませんが、会員の先生方のご意見を参考に、より良い制度に育てていければと考えております。是非とも「総合健診医」の認定申請をご検討ください。



日本大学短期大学部 教授
食物栄養学科 学科長
高橋 敦彦

研究奨励事業

本学会では、会員の学術水準の向上を支援するため、公募研究事業を行っています。採択された研究事業には、学会より1件当たり100万円を上限として助成を行っています。研究事業の成果は学術大会や学会誌において発表され、会員全体の学術向上に貢献しています。

なお、学術奨励助成の公募は例年、5月上旬を応募締切で以下の条件で募集しております。
詳細は、本学会HP (<https://jhep.jp/jhep/hyosyo/awd07.jsp>) をご確認ください。

応募条件

- 筆頭研究者が本学会の個人会員（正会員・一般会員）である。
- 筆頭研究者の本学会の会員歴が、応募時点で3年以上である。
- 筆頭研究者の所属機関が本助成金の受け入れを承諾することができる。

表彰制度

日野原重明賞



第24回 2023年度受賞者

氏 名	所 属
吉池 信男 先生	公立大学法人青森県立保健大学

日野原重明賞は予防医学において長期にわたり貢献された日野原重明先生の功績をたたえ設立された賞で、我が国の予防医学の発展に貢献された方を顕彰する制度です。

優秀論文賞

第36回 2022年度受賞者

	氏 名	論文名	掲載号
和文	笹目 敦子 先生	健診肺ヘリカルCTにおける冠動脈石灰化について	2022年49巻2号 p. 299-307
英文	井上 詠 先生	Smoking, aging and dyslipidemia are associated with the development of colorectal neoplasia in Japan	2022年49巻4号 p. 457-461

優秀論文賞は、本学会の学術誌に掲載された原著論文の中から、総合健診の発展及び学術的見地から優れた英文および和文論文を顕彰する制度です。

若手奨励賞／大会長奨励賞

2023年度 若手奨励賞・第51回大会長奨励賞

	氏 名	演題名
若手奨励賞	今井 仁 先生	脂肪肝の新基準MAFLDの背景病態把握と治療介入予測に関する検討 ー人間ドック反復受診者におけるNAFLDとの比較ー
第51回 大会長奨励賞	伊藤 佳奈美 先生	COVID-19の流行による医療従事者の生活習慣への影響について
	鍋嶋 洋裕 先生	コロナ禍における特定健診実施率の変化と受診中断者の特徴： 豊前築上地域の住民健診データを用いた検討
	杉浦 和真 先生	内臓脂肪CT検査における撮像条件の検討
	佐々木 裕香 先生	腹部超音波における脾臓観察手技改善報告 ～経年発見脾癌症例をもとに～

若手会員（40歳未満）の活性化を図る目的から、学術大会の一般演題を対象に若手奨励賞の表彰を行っています。応募された大会抄録より5題が選出され、大会時の発表をもとに若手奨励賞（1名）、大会長奨励賞（4名）を審査決定いたします。

産業医学奨励賞

第3回 2023年度受賞者

氏 名	演題名
湯井 真紀子 先生	コロナ禍による渡航制限下、海外駐在者が海外労働地で日本と同様の定期健康診断を受ける際の課題と対策について
石塚 洸太郎 先生	歯科検診導入による口腔環境と全身健康の関連について

会員の産業医学活動のさらなる展開を図る目的から、2021年度より産業医学奨励賞が創設されました。産業医学（産業保健・産業衛生）活動に関連した内容をテーマとし、応募された演題より選出され、大会時の発表をもとに審査決定いたします。

入会について

本学会では健診に携わる様々な職種の方にご入会いただいています。新たに入会を希望される場合は、本学会ホームページから入会届をダウンロードして、学会事務局までFAXまたは郵送でお送りください。なお、個人会員は学会ホームページからオンラインでも入会申し込みが可能です。

会員種別	概要	年会費
正会員・一般会員 (個人会員)	本学会の目的や活動に賛同する医師及び医師以外の個人の方が対象です。	10,000円
施設会員	総合健診システムを運営する施設が対象です。	70,000円
購読会員	学会誌の購読のみを目的とした団体または法人が対象です。	12,000円
事業維持会員 (賛助会員)	本学会の目的に賛同する団体または法人が対象です。	1口 (20,000円)

- 本学会事業年度は、12月1日から11月30日です。
- 入会は随時受付しておりますが、年度ごとに会費全額の納入が必要です。
- 年会費には本学会学会誌（年6冊）が含まれています。会員の皆様には発行後にお届けいたします。

会員数

2023年8月1日時点

会員種別	個人会員		施設会員		事業維持会員 (賛助会員)	購読会員	会員数総計
	正会員	一般会員	優良 健診 施設	その他			
会員数	1893	294	264	141	11	2	2605

特健・特保 集合契約Aについて

本学会施設会員は、本学会を「取りまとめ機関」として下の保険者との特定健診・特定保健指導の集合契約Aを委託契約することができます。集合契約Aをご希望の場合は学会事務局までお問い合わせください。

〈集合契約A参加予定代表保険者〉

「健康保険組合連合会」「全国健康保険協会・船員保険会」「日本私立学校振興・共済事業団」「一般社団法人共済組合連盟（国家公務員共済組合）」「福島県市町村国保」「全国土木建築国民健康保険組合（※委託範囲は特定健康診査のみ）」



日本総合健診医学会メールマガジン・Facebookについて

本学会では学術大会や研修会等のお知らせや健診に関する役員コラムを、毎月1回、メールマガジンとして配信しています。メールマガジンは会員以外の方もご登録いただけますので、本学会の活動に関心をお持ちの方はぜひ本学会ホームページよりご登録ください。また、学会Facebookでも研修会や学術大会の様子、優良総合健診施設の紹介等を掲載していますので、是非アクセスしてみてください。

一般社団法人 日本総合健診医学会 The Japan Society of Health Evaluation and Promotion

事務局 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1丁目31-10 セシア千駄ヶ谷ビル2階
TEL：03-5413-4400 / FAX：03-5413-0016 / URL：https://jhep.jp/

目的 本法人は、国民の疾病予防、健康維持、増進を通じて、一人ひとりにとっての生活の満足度を充足した健康寿命の延伸を図り、総合健診をはじめとする各種の健康診査、健康評価の方法、および健康予測の研究を行い、これらを健康教育に有効に活用して、国民の健康保持と増進に貢献することを使命とするものが相互に情報交換を行い、かつ交流を深めることを支援することを目的としています。

- 事業**
1. 学術大会の開催（年1回）
 2. 学会雑誌「総合健診」 ISSN 1347-0086
英文名：Health Evaluation and Promotion
(略称：HEP) およびその他の刊行物の発行
 3. 優良総合健診施設の認定
 4. 人間ドック健診専門医、総合健診指導士、総合健診業務管理士の認定
 5. 精度管理調査の実施（年4回）
 6. 各種研修会・講習会の開催
 7. 健診団体連絡協議会・日本人間ドック学会など関連学会・学術団体への協力
 8. 日本学術会議の登録学術研究団体としての諸活動
 9. 統計事業（受診者統計指標などの作成）
 10. 日野原重明賞・優秀論文賞・若手奨励賞・産業医学奨励賞等の表彰事業、学術奨励助成事業
 11. 国際健診学会の事務局業務



発行日：2023年8月30日